

# アマビエで疫病退散!

## 萬運輸 冷凍冷蔵車にラップピング

【神奈川】萬運輸（東海林憲彦社長、横浜市鶴見区）は、疫病から人々を守る妖怪「アマビエ」を車体に描いた冷凍・冷蔵車1台を、1日から県内で運行させて

ている事業者も多くいるとみられる。収束の見通しが立たなければ、受診機会は更に減り、健診を受けずに運転するドライバーは増加していく。

100台規模を運行し、一部のドライバーに毎年春と秋の2回健診を受診させている都内の運送事業者は「今は健診を控えるように言っている」と話す。厚労省が各種健診の延期を通知

している。新型コロナウイルスの感染拡大の防止に向け、トラック車体を活用して市民に感染予防を呼び掛けるとともに、物流の重要性をアピールするのが狙い。

していることについて、「新たに雇い入れたドライバーや深夜に従事するドライバーに健診を受けさせずに運転させ、健康起因の事故を起こしてしまった場合、どうなるのか。延期はOKと言われても、結局は個々の事業者に判断が委ねられている。どの省庁になるのかわからないが、何かしらの指針を出して欲しい」と要望した。

ウィング車にアマビエを描いた一番運輸（藤田憲靖社長、大分市）の取り組みをSNS（交流サイト）で知り、自社整備部門でも車体への印刷を行う「オートボディプリンター」を保有していることから、同様の取り組みを始めた。

自社で採したデザイナーにアマビエを描いてもらい、車体の片面にプリント。もう一方には、一番運輸と同じ画家の東京モノノケさんの作品を採用した。また、厚生労働省の公式ツイッターに掲載されているアマビエのロゴ・イラストを載せるとともに、同じくアマビエの車体プリント



自社で採したデザイナーが描いたアマビエをプリントした冷凍・冷蔵車

に取り組んでいる清水運輸（清水英次社長、埼玉県志木市）が作った「疫病退散! アマビエチャレンジ」のロゴを使用している。東海林社長は「トラックとオートボディプリンター

増やせれば、と思う。新型コロナウイルス収束後の経済活動再開に向け、物流の重要性も伝えていきたい」と話している。

（吉田英行）